

2012年度

理事長：三浦新介

みうらしんすけ



01

理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

誰にでも伝わりやすい言葉で話し、また静岡青年会議所理事長(リーダー)としての身なりや立ち居振舞いを重視しました。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

理事長就任前年に起きた東日本大震災の被災地を見て、戦後の荒廃した景色をイメージしました。復興への思いという点において、静岡青年会議所の発足当時の状況と重なり、「原点回帰」としました。あえて本来の「帰」の文字から「起」と変えたのは、依田副理事長からの「原点に戻り立ち上がろう。」という意見を込めて用いました。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

自分一人で行うことのできる事の限界を感じたとき、周りにいた家族、仕事の関係者、JCメンバーの人たちの協力がありました。そういう存在の大切さに気付いてから、いろいろな個性を認められるようになりました。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

事業が終わり、メンバーそれぞれが達成感に満ちた姿を見たときや、自分の思いが事業を通じて伝わったことをメンバーの表情から感じられたときです。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

静岡青年会議所の根幹にあるものは、発足当時から変わりませんが、時代背景ごとに行っている事業内容は変化して当然だと思います。まだ時間があまり経っていませんが、短いながらも時間が過ぎたことで事業に変化が出てきたのではないのでしょうか。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

青年会議所の活動は単年度事業ですが、その事業内容は前年度の事業を踏まえたうえで行ってきたものです。そのような事業活動の中で「常に誰かのために行動する。」という思いは、自分を含め多くの理事長の方たちも、理事長になるまで活動する中で自然と身に付いて、それが代々の理事長に伝わっていると思います。

07

これからのJCが果たすべき役割は何とお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願い致します。

JCは企業や行政のように、具体的に何かを変えていく組織ではありません。この組織が果たすべき役割とは、あらゆる不満や怒りを受け止めて、多くの人たちの心に良い方向に変えていこうとする思いが芽生えるきっかけを与えていくことだと考えます。

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

現状としては、寂しく思います。ただ多くの人たちが、「我が街「静岡」にとって大事な本質とは何か？」を今一度見直す良いチャンスであると思っています。

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2012年度のキーワードとして『誇り』『復興』『魅力溢れる未来』等があると思いますが、三浦先輩にとってその年をひとりで表すならどのような言葉を選びますか。

「原点回帰」です。誰かに委ねるのではなく自らの行動において切り拓いていくことで、「誇り」「復興」「魅力あふれる未来」という思いを実現できます。その状況は静岡青年会議所発足当時のものと何ら変わらないもので、またそのスタンスを続けることが必要だと考えました。

10

「危機管理マニュアル」「相互援助ネットワークの構築」を通し、静岡のまちづくりへの貢献や会員意識の醸成につながったと思います。しかし、JCには単年度制の問題がございます。今後このような事業をどのように周知し、年度を超えて活かしていくべきかをお聞かせください。

単年度の枠組みの中でも、状況に応じた更新を行っていくべき事業がありますが、静岡青年会議所が単年度ごとに行える活動量は限られています。静岡JCの能力をより活かすためには、やるべきこととそうでないものを見極め、静岡JCが築き上げたものでも他団体に委ねることが必要です。常に現状の問題に取り組む姿勢が、静岡のまちづくりへの貢献や会員意識の醸成につながると思います。

11

理事長自身も被災地に行かれ復興支援活動に携わってきたと聞いております。そしてこの年は多くの復興活動をJCの事業を通し行ってきました。三浦先輩にとって何度も被災地に足を運ぶうちに想いの変化などがございましたか。

東北の地に行く回数を重ねるごとに会ってきた人たちの心境の変化、状況の変化による新たな問題の発生を見てきました。またそれを見て「静岡で発生したならば？」という思いが生まれ、被災地で感じたことを、どのように対策に反映することができるか考えるようになりました。

12

「魅力溢れる未来」という言葉がとてきれいな言葉で心に響きます。一年を通じて、静岡青年会議所メンバーの変化をどのように感じましたか？

活動を通じてメンバーが、「自分たちの活動の根幹とは何か？」を今一度考え再認識する事ができたのではと思っています。

取材全体としてのまとめ・感想

所信、スローガンでも掲げている原点回帰という言葉がすべての活動の根幹にありました。『原点回帰』という言葉は、東日本大震災で戦後の日本の様な状況となり、そのころ活動していた先輩JAYCEEたちの功績を『原点』として再び静岡LOMメンバーが『起こす』ために掲げられました。その言葉通り、復興支援に関する活動や震災を教訓とした活動が多く、メンバーが自らの想いで活動し、やり遂げた時の皆の喜んだ顔がその年の成功を物語っていました。

取材前と後での特に気付いた点

所信や活動内容を読んで少し想像していましたが、理事長自身、メンバー全員が理解しやすい言葉で常に表現して想いを伝え、自ら厳しい立ち居振舞いをして組織のリーダーとして努力されたとのことでした。また、今と昔のJCの違いに関して、時代背景は変わるので活動内容や手法が変わるのは当然だが、活動の本質、根幹は常に変わらないというお答えをいただきましたが、これは他の歴代理事長に共通するお答えでした。